東京高連ニュース

発　行
東京高齢期運動連絡会
電話：03(5956)8781
fax:03(5956)8782
em:tokyo.koureik@gmael.com
発行人：福井典子

「75歳以上窓口負担現状維持」の陳情

府中市議会本会議で逆転採択へ

3月11日、府中市議会本会議で、「後期高齢者の医療費窓口の現状維持を求める意見書」の陳情を不採択とした厚生委員会の決定を否決、23日の本会議で意見書は採択される見通しです。

府中では、年金者組合府中支部の事務局長の遠藤道雄さんの名前で陳情を提出しました。

3月3日に開かれた厚生委員会では、高齢期問題を考える府中連絡会の会長（年金者組合・自治体問題を担当）の武田正實さんが補足説明に立ちました。

① 高齢者の中に貧困と格差が広がっている中で負担増は許されない。
② 病気が多くなる75歳以上の高齢者に負担増を求めるべきでない。
③ 憲法25条、国連社会権規約に照らしても、75歳以上への負担増は許されることではない。

の三点にわたって述べ、全会一致での採択をと訴えました。

厚生委員会では、賛否同数となり、委員長（公明）によって不採択とされました。しかし、3月11日に開かれた本会議では、厚生委員会の不採択の報告が14対15で否決、23日の本会議に議員提案の形で意見書採択が提案されることになりました。

府中のなかまの日ごろからのねばりづよい運動と、75歳以上の医療費窓口2割負担導入に反対する世論の高まりがこの結果を生み出した力です。

意見書採択

賛成は、市民フォーラム（7）、共産党（3）、生活者ネット（2）、自由クラブ（2）、都民ファースト（1）反対は自民党市政会（8）、公明府中（5）、新政会（1）

75歳以上の医療費窓口2割負担導入反対！！

今が山場、困難のりこえ署名目標を突破しよう！！

政府は、新コロナ騒ぎの中でも悪政を着々と進め、6月中に「全世代型社会保障検討会議」最終答申を出し、2020骨太方針にもりこみ、今年中に75歳以上への窓口2割負担導入を決めようとしています。これを阻止するために中央社保協・全日本年金者組合・日本高齢期運動連絡会の呼び掛けで「75歳以上の医療費負担の原則2割化反対、保険料引き下げを求める請願書名」が提起され、各団体・地域では既に取り組みが呼びかけられていますが、50万目標に対して日本高連での集約が2万弱です。2割負担導入を阻止するため取り組みを本気で急速に広げることが求められています。

（1）署名を急速に広げましょう。
（2）全自治体で陳情・請願に取り組みましょう。
（3）学習に取り組みましょう。
（4）宣伝にとりくみましょう。

東京高齢期運動連絡会は、2月28日に予定されていた総会で2割負担阻止の運動を意思統一する予定でしたが、総会が延期になったため、取り組みの要請などの文書セットを各地域・団体に送付します。直ちに具体化をお願いします。

世田谷でも「請願趣旨採択」

世田谷区でも昨年11月18日に区議会に提出された「75歳以上の医療費二割負担に反対する請願」が、福祉・保健常任委員会で審議され、賛成5、反対4で趣旨採択されています。

共同行動アンケート　急いで集めてください

高齢期運動連絡会では、今年も自治体要請・共同行動を重視しています。自治体要請・共同行動アンケートは、3月20日現在で27自治体からの集約で、172ページの報告書になっています。しかし、昨年届けられていた足立・新宿・渋谷・西東京・東久留米・立川・昭島・青梅・稲城の9自治体からのアンケートが届いていません。

東京高連総会再開のお知らせ

5月12日（火）総会開催を予定

13時30分から　東部区民事務所で

5月12日（火）午後1時30分～5時、豊島区立東部区民事務所で改めて総会を開催することにしました。

総会の前段には当初の予定通り「医療・介護・福祉から見た都政の問題点と運動の方向」と題して、氏家祥夫さん（都立病院の充実を求める連絡会代表委員）からお話を頂きます。

コロナウイルスの影響で各種運動が停滞していますが、総会には各団体・地域からの複数での積極的参加をお願いします。

今年は都知事選挙（6月18日告示・7月5日投票）と情勢によっては総選挙も予想されます。総会で提起する議案の骨子をお知らせしますので、総会での積極的な討論で、より豊かな方針にして頂くよう願いします。

総会議案の骨子

【19年度活動の到達点】

18年の第32回日本高齢者大会in熱海で提起された運動の重点を踏まえて、東京高連は高齢期運動の基本的な在り方と、推進体制について議論を深める1年と位置づけて、取り組みを進めてきました。

運動の課題としては、①憲法9条改悪阻止・戦争する国造り阻止　②消費税10％へ引き上げ阻止　③地域からひとりぼっちの高齢者をなくし、高齢になっても安心して暮らせるまちづくり　④75歳以上の医療費窓口2割負担阻止　⑤国保料金引き上げ反対、保険料引き下げ　⑥介護保険制度改悪反対　⑦憲法25条を守る闘いとの共闘　⑧医療制度改悪反対、地域医療を守れ　⑨高齢者雇用・就労対策の充実、最低賃金制度改善　⑩原発ゼロを⑪高齢期要求全都共同行動の前進　⑫日本高齢者大会と豊かな高齢期をめざす東京のつどいの成功⑬統一地方選挙・参議院選挙の勝利を掲げ取り組んできました

【運動の進め方と体制の強化】

①体制確立について議論を深める　②地域に高齢期運動を担う軸の確立、全都の地域のつながり強化　③学習の重視　④世代間、階層間などの分断を許さず、要求と運動で団結を　⑤社会保障に散り組む団体・個人との共同の強化　⑥東京高連の運営を「連絡会」らしいものに　⑦組織・運営・財政の強化についてそれぞれの到達点をまとめました。（議案書で見てください）

【２０年度の活動方針】

財界・安倍政権との対決の様相が一段と深まる情勢のなか①憲法9条改憲発議阻止・戦争する国づくり阻止　②高齢者が安心して暮らせるまちづくりの運動を明確にし、それに相応しい取り組みを進める（高齢者自身の運動参加と団体間の団結連携の強化）　③①②を基礎に、19年度の運動の各課題への取り組みをさらに強化する。

【運動の進め方と体制の強化】

①まず、議論を引き続き深める「高齢期運動検討委員会（19年度設置）」を軸として　②地域の運動の中心軸の確立と全都一体の運動の推進をめざす　③引き続き学習を重視する　④世代間の連帯・階層間の連帯強化　⑤運動に必要な財政と人的体制の強化を目指す

20年度は東京都知事選挙に続いてオリンピック・パラリンピック。いずれも東京都民として国民全体にとって、政治や社会・経済・文化等々の重大な問題点や課題が提起されています。

“人間らしく生き、人間らしく働く”ことの出来る日本社会の実現。“一人ひとりが個人として、その生き方が大切にされる”日本社会の実現に向けて、総会での活発で建設的な議論が期待されます。

コロナに負けず、体調に気を付けて総会への参加をお願いします。

新型コロナウイルス感染症対策
民医連はじめ市民団体や政党の声が厚労省動かす

1、資格証でも保険証あつかいに

厚生労働省は2月28日、国民健康保険料（税）の滞納で資格証明書（資格）を交付された世帯が「帰国者・接触者外来」を受診した場合、資格証を短期保険証とみなすよう「事務連絡」をだしました。

※すでに自治体から短期証が郵送されているはずですが、届いていない場合は自治体に連絡して交付を受けて下さい。

2、検査費用は公費で負担

新型コロナウイルス感染症の「PCR検査」については、3月6日付けで保険適用がされました。

【以下3面に続く】

人の命と経済をテンビンにかけるな！
都立病院の独立法人化、病院の統廃合に反対しよう！

小池都知事は、２０１９年１２月３日定例都議会の冒頭で「都立８病院と保健医療公社６病院の地方独立行政法人への移行に向けた準備を進めます」と表明。１２月２５日「新たな病院運営改革ビジョン（素案）」を発表。一方、厚生労働省は２０１９年９月２６日、全国の公立・公的で運営する４２４病院を再編・統合の議論が必要な病院として名指しで公表、２０２０年９月末までに対応方針を決めるよう求めた。さらに、今年１月１７日、厚生労働省はすでに発表した４２４病院のリストに対して、データー入力ミスを理由に7病院が外れ、新たに４４０病院となった。

この公表の中に東京では１０病院が指定（後に済生会中央病院が除外）された。府中の神経病院が「評価外だが、実績が少ない」という理由で名簿に病院名が公表。都立病院の独法化と併せて都立神経病院再編・統合の２つの攻撃にみまわれたことになる。

「多摩メディカルキャンパスをよくする会」は、公表直後、独自の宣伝チラシを発行し、労働組合と共同で駅頭宣伝（西国分寺、国分寺、国立）と署名活動に連日連夜行動した。国立駅では自治労連、日本医労連、中央社保協、国立市職の参加で国及び東京都の理不尽な計画を訴える宣伝を行った。ここでは「義理の父がパーキンソン病で診てもらっている、無くなったら困ります」「小池さんに投票したのに、都民はラストなのね、知事選もう小池さんに入れないわ」と対話がはずむ。また、神経病院院長要請行も実施。「全国的に類のない神経筋難病専門病院であり、整備・統合はありえないと思う」「台風１９号の時多摩川が増水し、府中市の一部に避難勧告が出た。夫ＳさんはＡＬＳ（筋萎縮側索硬化症）で、３６５日呼吸器をつけて生命を保っている、バッテリーは９～１３時間が限度、これで終わりかと一寸頭をよぎりました。いつも診てもらっている神経病院に電話したところ、すぐ来てください」と言われて、この時ほどありがたかったことはないと要請の時に訴えられた。同じ日に４人の患者さんから神経病院に避難されたとの報告があり、ＡＬＳの患者さんのＳさんは、ここはまぎれもない「命のふるさと」なんだと言います。厚生労働省の交渉では、全国から地域医療が崩壊するとお叱りを受けております、と言いながら「方針の撤回」の言葉はありませんでした。

２月19日　都議会開会日の都庁要請行動

今回の件は、ズバリ財務省の圧力で総務省２００７年、２０１５年に作成した「公立病院改革ガイドライン」に基づき進捗状況を見ていたが病院・病床数の減少が見込み違いであったことから、厚生労働省がやけくそになって、やったことのないことをやった、根拠のないものと言わざるを得ない。都立病院の「再編・統合」も根っこは一つ。国の社会保障費（年金・医療・介護等）の大幅な削減であることが明確です。

「誰が得して、誰を泣かすのかが問われている」。都立病院の独法化問題も、公立・公的病院の再編統合問題も根っこはひとつです。高齢者・病人・生活弱者にムチ打つ政治は許せない。新コロナウイルスとの闘いに、米軍の中古兵器の爆買いなど愚の骨頂。

７月の都知事選挙と予想される総選挙で都政と国政にみんなで審判を下しましょう。

（メディカルキャンパスをよくする会　柳　林子）

【2面の続き】

3、保険料猶予など柔軟な運営

これに伴いＰＣＲ検査は保険扱いにして、発生する「一部負担金」（１割～３割）については「公費負担」とすることになりました。

新型コロナウイルス感染症対策として、厚生労働省は３月10日、国保、後期高齢者医療、介護保険について、特別な理由がある者は保険料の徴収猶予が可能だと周知するよう、道府県に事務連絡を行いました。なお、省令で14日いないとしている資格喪失、住所変更などの届け出については、感染拡大の防止が求められるため、やむを得ない理由による遅延を認めるなど、柔軟な運営をもとめました。

日本高齢者大会は9月25日～26日長野で

第34回日本高齢者大会準備進む

今年の日本高齢者大会は「まちから村からの連帯でひとりぼっちの高齢者をなくそう」のメインスローガンを掲げて、長野市で行われます。

全体会は9月25日(金)ホクト文化ホール（長野市若宮1－1－3）

記念講演は、寺沢秀文さん（満蒙開拓平和記念館　館長）です。25日は、夜の企画も行われます。

講座・分科会は、9月26日（土）9：00～12：00信州大学工学部（長野市若里4－17－1）。

移動分科会も計画中です。

東京は松代に宿泊

東京からの参加者の宿泊のため松代のロイヤルホテル長野に350人分予約しました。

宿泊先から各会場へバスで約20分です。会場へのバスでの送迎も手配する予定です。

地域や、団体で独自にバスツアーを組む場合も25日の宿泊は、東京実行委員会で確保した「ロイヤルホテル長野」に泊まって下さい。

大会への参加費

①大会参加費1日当たり2，500円　全日程で5，000円

②東京実行委員会への分担金1日当たり500円

全日程で1，000円

③ロイヤルホテル長野宿泊費は宿泊代9，800円、入湯税150円

会場への送迎などに若干費用がかかるかも知れませんが、参加費は全部でおよそ16，000円くらいになると思います。

5月12日実行委員会で具体化

東京からの参加の詳細と、東京実行委員会独自のツアー（昨年は大会後もう1泊し被害地視察）などは、5月12日に開かれる2つの大会を成功させる実行委員会で相談します。

実委後に実施要項と申込書を地域、団体に送ります。

早い時期から大会日程などを知らせ、大会成功に向けた取り組みをお願いします。

また、参加費についても各組織で一番苦労されることですが、大会前に納入されるようお願いします。

30年以上の歴史、北区の高齢者集会

1980年代から続き29回目を迎えた北区高齢者集会が、2月16日（日）東京土建北支部会館を丸ごと借りきって開催され、参加者は午前の分科会42名、午後の記念講演47名でした。

健康をテーマに参加した東京ほくと医療生協からは、王子支部が健康を守るコーナーで骨密度、血管年齢などの健康チェックを、赤羽東支部が普段のサロン活動そのままに、ほっとカフェを開催。また、王子生協病院リハビリ科の職員による、畳で座ったままでできる体操講座も開かれました。

参加型を売りにしている年金者組合からは、恒例のちぎり絵、切り絵教室や沖縄の平和を祈念してのジュゴンの折り紙や、午後のオープニングでも、歌声チームのハーモニカに合わせての合唱で活躍しました。

展示を中心としたコーナーも会場に設置され、地元の民商参加の電気屋さんのファンタジックな絵画や、地域にも広がっていて定年後のほくと職員も参加している、地域写真クラブからも写真展示が出されています。

私も“墨田川に架かる橋”をテーマに数枚の写真を展示させてもらっています。

記念講演には、外科医師でNPO医療制度研究会・副理事長の本田宏医師による“どうなってるの？日本の年金、医療社会保障崩壊のルーツ明治維新を斬る！”が行われました。

医療や社会保障保証が削られ、医師不足に向き合わない、政府や厚労省の本音が、私たちにもわかりやすく学べた学習会で「本田先生の講演、感動。勇気と元気もらった。」という感想が数多く出されました。

現在、私たちが置かれている日本はたくさんの危機に立っています。表現の自由のない社会は民主主義とはいえなくなります。「市民社会への過剰な規制、このような不寛容な時代を変えていくのは私たち」という集会を締めるアピールも出され、憲法25条がかかげる「健康で文化的な最低限度の生活」をすべての人々に公的責任で保障する社会をつくりあげるようという、つどいとなった北区高齢者集会でした。

（北区地域づくりをめざす連絡会　事務局　森松伸治）